



号外

昭和34年4月1日  
第3種郵便物認可

定価1部2円  
発行所  
盛岡市内丸10番1  
号 岩手県庁内  
岩手県職員労働組  
△

# 獣医師処遇 改善特集号

(獣医師全職員にあてて)

2017.8.31 発行

# 獣医師人材確保のため処遇改善を！ 初任給格付け・初任給調整手当を先進県並みに 生涯賃金確保のため給料の調整額の新設を 獣医師確保の課題を集約し確定期に要求へ

8月25日、県職労は、3家畜保健衛生所、食肉衛生検査所の各分会の獣医師と労働条件改善会議を開催し、県職場の獣医師を巡る諸課題について意見交換を行った(保健所配置の獣医師については別途意見集約)。



意見交換の様子

## 【主な意見交換の概要】

### ① 獣医師確保の県の姿勢

全国有数の畜産県であり、防疫措置等の拡充が求められるため獣医師確保(特にも新卒者)が喫緊の課題。初任給格付けや初任給調整手当をはじめ処遇面でも先進県以上の内容でなければ業務に魅力があっても人材は確保できない。処遇面の改善や獣医師確保のための新卒者へのアプローチの充実を行うべき。

### ② 処遇面の改善(初任給格付け・初任給調整手当の改善、給料の調整額の創設)

先進県である北海道、宮崎、鹿児島等に比して低水準。獣医師は他県出身者の確保が重要となる。先進県以上の水準の確保が必要。全年代の賃金水準の改善も課題。先進県と同様に給料の調整額の創設が必要となる。将来的には獣医師職務給料表などの新たな給与体系を求めることが必要。

### ③ 奨学金制度の拡充

獣医師を希望する方への奨学金制度の拡充が課題。希望者が活用できるように奨学金枠の拡大が必要である。県就職後に返済を免除する等の措置も必要。

### ④ 人員体制の整備

職場体制に余裕がなく、長期研修への派遣が困難。さらに公衆衛生等の他分野に配属し、経験を積む機会も減少。キャリアアップ等をするためにも人員体制の整備が課題。

その他、採用試験に係る2次試験の免除なども意見として挙げられた。意見交換を踏まえ、県職労は関係職場と連携しながら、「①初任給格付け・初任給調整手当の改善」、「②給料の調整額の創設」、「③奨学金制度の拡充」、「④人員体制の整備」を柱とした要求を掲げ、秋の確定闘争において要求書提出・交渉を行い、当局に改善を強く求めていく。

# 岩手の処遇低すぎ！ 先進県以上でないといと獣医師は来ないぞ！ 処遇改善の要求の柱はこれ！

## 《POINT①》初任給格付け・初任給調整手当の改善を

表①は、先進県での初任給格付けとの比較、表②は初任給調整手当総額の比較となる。

初任給格付けでは岩手県と同様に医（二）2-15としている県は8県であるも、2-17は23県、2-19は6県などで、他県より見劣りしている現状にある。また、福岡県では今年度から独自給料表を適用しており、初任給だけでも5万円以上違いが生じている。

さらに深刻なのは初任給調整手当総額だ。初年度の初任給調整手当額は北海道、青森に劣るばかりか、支給総額では宮崎、鹿児島などの畜産県よりも大幅に少額だ。少なくとも畜産先進県並みの総額水準の確保が必要だ。

表①

県名	初任給	額
岩手	医(二)2-15	208,600
宮城	医(二)2-19	214,700
福島	医(二)2-19	217,300
茨城	医(二)2-19	211,700

表②

県名	手当額(初年度)	支給総額
岩手	35,000	3,780千円
北海道	46,500	6,723千円
青森	45,000	6,750千円
宮崎	30,000	4,500千円
鹿児島	30,000	5,580千円

## 《POINT②》給料の調整額の導入で生涯賃金を確保

初任給の改善と併せて重要なのは生涯賃金の確保にある。当県では特殊勤務手当として、家畜保健衛生業務手当（月額17,600円。家畜保健衛生所）、と畜検査手当（給料月額8%。食肉衛生検査所）等が該当する。しかし、先進県では「給料の調整額」を導入している。給料の調整額は、「職務の複雑、困難若しくは責任の度又は勤務環境」に応じて業務の特殊性に基づき支給するもの（支給額：職務の級に応じた調整基本額（表③）×調整数）。

表③

級	調整基本額
2級	8,100円
3級	9,100円
4級	9,600円
5級	10,600円
6級	11,200円
7級	12,200円

【計算例】3級35号（37歳程度）（調整数は福島県の事例）

・食肉衛生検査所 9,100円×3=27,300円、・家畜保健衛生所 9,100円×2=18,200円

当県の特殊勤務手当と給料の調整数との比較は以下のとおり。級が上がるにつれ差が拡大し、生涯賃金では給料の調整額が有利である。さらに、期末勤勉手当や退職手当にも影響するため、総額では相当の賃金改善となる。給料の調整額の導入（調整数の確保を含む）とともに、保健所配置の公衆衛生獣医師の均等待遇も重要な課題だ。

○5級44号（40代後半）の事例

＜家畜保健衛生所のケース＞

岩手：17,600円（家畜保健衛生業務手当）＜（福島：10,600円×2（調整数）=21,200円

＜食肉衛生検査所のケース＞

岩手：362,200円×0.08=28,976円＜福島：10,600円×3（調整数）=31,800円

## 獣医師不足の根本的解決のため処遇改善が不可欠

獣医師へのニーズが高まっているなかで、恒常的な欠員が生じるなど極めて深刻な事態。応募しても獣医師が確保されない現状を根本的に改善するには、先進県以上の処遇にし、新卒者に魅力ある職場であることを積極的にアピールする必要がある。先進県では処遇面に加え新卒募集等も精力的であり、当局は現場実態を踏まえ実効力ある改善を行うべき。